

**令和6年度私立学校初任者研修九州地区研修会実施概要**  
 ～私立学校教員としての心構えの体得と実践的指導力の育成～

実 施：福岡県私学協会

会 期：令和6年7月3日（水）～7月5日（金）

会 場：博多サンヒルズホテル(福岡県福岡市)

参加人数：150名

参加対象者：九州地区（福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄）の各県私学協会に加盟する私立中学校・高等学校・中等教育学校に新たに採用された教員（経験者でも可）及びそれに準ずる教員

**【日程細目】**

**第1日 7月3日（水）**

[全体会場：瑞雲の間（2階）]

12:00	受付	
12:55	から日程説明等	司会：川原 猛寿
13:00	<b>開 会 式</b>	司会：小早川 邦彦
	開会のことば	初任者研修福岡県実行委員会 委員長 新田光太郎
	主催者挨拶	一般財団法人日本私学教育研究所 理事長 吉田 晋
	開催県代表挨拶	福岡県私学協会 会長 八尋 太郎
13:20	<b>研 修 I</b>	司会：菅原 信博
	講 義 「プレ22世紀型教育に向けて時代を動かすレバレッジポイント」	講師紹介：木本 和浩
	講 師 平方 邦行 一般財団法人日本私学教育研究所 所長	
14:30	休 憩	
14:45	<b>研 修 II</b>	司会：津山 憲司
	講 義 『従来型教育からの脱却』～多様性という言葉の落とし穴～	講師紹介：江口 満
	講 師 齋藤 真人 立花高等学校 校長	
16:15	諸 連 絡	司会：川原 猛寿
16:30	休 憩	
17:00	<b>経験交流会</b>	[会場：瑞雲の間（2階）] 司会：川原 猛寿
	挨拶・乾杯	福岡県私学協会 副会長 友野 秀樹
19:00	次期開催県挨拶	佐賀県（佐賀清和中学校・高等学校 校長）土井 研一

**第2日 7月4日（木）午前**

8:30	受付（2階）	
9:00	<b>研 修 III</b>	司会：友野 秀樹
	講 義 「やる気を引き出す学習する空間づくり」	講師紹介：熊谷 智彦
	講 師 大矢 純 授業学研究所 所長	謝辞：（参加者より選出）
10:30	休憩・移動	[全体会場：瑞雲の間（2階）]
10:45	<b>グループ討議1（研修IIIを受けての討議）</b>	
	協議題 「自らの強みに自信を持ち、児童生徒の取り組みかたを伸ばして学力向上を図る」	
	1班 会 場 多目的ホール（1階）	
	指導員 坪内 ゆかり 久留米信愛中学校・高等学校 教頭	
	2班 会 場 星雲の間①（2階）	
	指導員 松井 友瞭 立花高等学校 教頭	
	3班 会 場 星雲の間②（2階）	
	指導員 水田 啓輔 慶成高等学校 教頭	
	4班 会 場 星雲の間③（2階）	
	指導員 石田 一則 折尾愛真中学・高等学校 教頭 教務部長	

12:15	5班 会場 扇寿の間 (3階) 指導員 西村 正己 東海大学付属福岡高等学校 教頭
13:15	6班 会場 福寿の間 (3階) 指導員 井川 正 仰星学園高等学校 教頭
	7班 会場 筑紫の間 (3階) 指導員 野仲 裕輔 福智高等学校 教頭
	8班 会場 有明の間 (4階) 指導員 金丸 敏雄 杉森高等学校 教頭
	昼食・休憩 [会場：瑞雲の間 (2階)]
15:00	研修Ⅳ 司会：江口 満 講師紹介：友野 秀樹 謝辞：(参加者より選出)
15:15	講義 「アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善～R80の活用と効果を中心に～」 講師 中島 博司 株式会社 FCE エデュケーション参与 [全体会場：瑞雲の間 (2階)]
	休憩
16:45	グループ討議2 (研修Ⅳを踏まえての討議) 協議題 「アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善について、 これからどのように取り組んでいくか」
	1班 会場 多目的ホール (1階) 指導員 坪内 ゆかり 久留米信愛中学校・高等学校 教頭
	2班 会場 星雲の間① (2階) 指導員 松井 友瞭 立花高等学校 教頭
	3班 会場 星雲の間② (2階) 指導員 水田 啓輔 慶成高等学校 教頭
	4班 会場 星雲の間③ (2階) 指導員 石田 一則 折尾愛真中学・高等学校 教頭 教務部長
	5班 会場 扇寿の間 (3階) 指導員 西村 正己 東海大学付属福岡高等学校 教頭
	6班 会場 福寿の間 (3階) 指導員 井川 正 仰星学園高等学校 教頭
	7班 会場 筑紫の間 (3階) 指導員 野仲 裕輔 福智高等学校 教頭
	8班 会場 有明の間 (4階) 指導員 金丸 敏雄 杉森高等学校 教頭
17:45	グループ発表準備
18:30	夕食 [会場：瑞雲の間 (2階)]

第3日	7月5日 (金)	[全体会場： 瑞雲の間 (2階)]
8:30	受付 (2階)	
9:00	グループ発表・講評 (各班発表 10分・講評 10分/途中休憩 10分×2回) 【講評者】 菅原 信博 久留米信愛中学校・高等学校 校長 (講評：1班～3班) 木本 和浩 慶成高等学校 校長 (講評：4班・5班) 津山 憲司 東海大学付属福岡高等学校 校長 (講評：6班～8班)	司会：新田 光太郎
11:00	研修のまとめ レポート用紙に研修会の感想等を記入の上、提出。	司会：川原 猛寿
11:30	閉会式	司会：小早川 邦彦
12:00	主催者挨拶 一般財団法人日本私学教育研究所私立学校初任者研修等事業検討委員 開催県代表挨拶 福岡県私学協会 副会長 修了証授与 一般財団法人日本私学教育研究所私立学校初任者研修等事業検討委員 閉会のことば 初任者研修福岡県実行委員会委員長	菅沼宏比古 大和 雅彦 森 涼 新田光太郎
	解散	

**概要** ※講師、担当者の所属・職名は日程細目参照。

**【開会式】** 新田光太郎・初任者研修福岡県実行委員長より開会が宣言され、主催者を代表し、吉田晋・一般財団法人日本私学教育研究所理事長より「私立学校は教員が仲間や生徒、保護者と共に理想的な教育を実践できる環境であり、私学教員となったことに誇りを持ち、研鑽を積んでほしい」と挨拶があった。また、開催県を代表し、八尋太郎・福岡県私学協会会長より、「教員は何年続けていても、年に数回は感涙する程の場面に出会う素晴らしい仕事であると思っている。各々が良き私学人となるよう祈念する」と挨拶があった。



吉田晋氏



八尋太郎氏

**【研修 1】「プレ22 世紀型教育に向けて時代を動かすレバレッジポイント」／**

平方邦行・一般財団法人日本私学教育研究所

平方講師は、日本における私立学校のあゆみについて解説し、現在の中学生の大半が 22 世紀の社会を生きることを意識した上で、22 世紀からバックキャストして現在の教育を考えていく必要性を訴えた。



平方邦行氏

**【研修 2】「『従来型教育からの脱却』～多様性という言葉の落とし穴～」／**

齋藤真人・立花高等学校校長

齋藤講師は、自校の生徒や保護者とのエピソードを交えながら、生徒に対し既に出てきている点を褒めることの重要性を説き、各校で理想とする生徒像がある私学において、「『社会性』と呼ばれる一般的な価値観を当てはめて評価することの是非を、今一度考えてほしい」と述べた。



齋藤真人氏

**【研修 3】「やる気を引き出す学習する空間づくり」／大矢純・授業学研究所所長**

大矢講師は、進化と普及の著しい人工知能・AI について触れ、直近の 30 年間でインターネットの情報量は 100 万倍になっているとし、今後、人間には発想力が必要になるため、生徒にはそうした創造的な思考を促す「学習する空間作り」が効果的であるとした。

**【研修 4】「アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善～R80の活用法と効果を中心に～」／**

中島博司・株式会社FCE エデュケーション参与

中島講師は、アクティブ・ラーニング（以下AL）の定義を参加者と共に再確認した上で、「AL の目的はアクティブ・ラーナーの育成である」とし、「そのためには論理力が必要である」との考察のもと、R80 の活用法について、実践を交えながら解説した。

**【グループ討議 1】** 研修 III を受け、「自らの強みに自信を持ち、児童生徒の取り組みかたを伸ばして学力向上を図る」と課題設定した上で 8 つの班に分かれて討議を行った。

**【グループ討議2】** 研修 IV を受け、「今後どのように授業に取り組んでいくか」についてグループ討議 1 と同じグループで討議を行い、最終日のグループ発表に向けて準備を進めた。

**【グループ発表・講評】** 班ごとに討議のまとめを発表し、「未来を生きる子ども達には、自ら考え、周囲と協働して課題解決していく力が必要で、そのためには私学の特性を活かし、生徒一人一人の個性や感性を伸張できる授業や学校づくりが大切だと考える」など、研修の成果を全体で共有した。また、発表を受け、3 名の実行委員より講評があった。



**【閉会式】** 主催者を代表し、菅沼宏比古・私立学校初任者研修等事業検討委員より「今後、学校現場で様々な問題に直面すると思うが、自分なりに打開策や対処の方向性を考えた上で、上長に報告・相談することを心がけてほしい」と挨拶があった。また、新田光太郎・初任者研修福岡県実行委員長より「『誰一人取り残さない教育』の中に、自分自身も含めることを忘れず、自分を愛して教員を続けていってほしい」とエールが送られ、研修会を閉じた。



菅沼宏比古氏



新田光太郎氏

## 参加者アンケートより

### 研修Ⅰ 講話：「プレ 22 世紀型教育に向けて時代を動かすレバレッジポイント」（平方先生）

- 21 世紀型教育「未来社会設計製作」に向けてまずは 21 世紀型の課題解決能力をどのように生徒に身につけられるか、の重要性に改めて気づいた。私立の強み出せる“自由”を活かしたい。
- 現代社会の問題である少子化の中で、私立高校がこれから生き残っていくために、どうしたらよいのか考えさせられる講話だった。公立高校にはできない「未来社会設計政策」をできるだけ早く取り入れていく必要があることが分かった。
- 22 世紀型教育は生徒だけではなく、教師だけでもなく、両者が協力してつくりあげていくことが大切だと感じた。私立学校の教師ということ念頭において私立学校独自の教育をしていきたい。

### 研修Ⅱ 講演：「『従来型教育からの脱却』～多様性という言葉の落とし穴～」（齋藤先生）

- 「頑張れ」の一言より「頑張ってるね」というこれまでの過程をほめることの重要性を感じた。ふとした一言で一人の生徒の気持ちを楽にすることができると思うので、考え方、言葉選びは大切だと感じた。
- 普段「当たり前の基準を上げる」を目標に教育活動をしているが、時には「当たり前の基準」を下げて、全員が居心地の良い空間をつくることも大切なのかなと思った。自分が常識だと思っていることが通用しない子供にも目をむける大切さを学んだ。
- 齋藤先生みたいに全部に対して「よか」とは言えないかもしれないが、見落としがちな頑張りも感謝することを自分自身が怠っていたんだなあと思った。「よか」とは言えなくても、間違いを間違いとして認めながらも、強くあたらす許してあげたいと思う。
- どうしても目の前の不登校の子・困っている子などに声を掛けがちだが、より行いをしている子や当たり前のことをしっかり出来ている生徒に目を向けて褒めることを忘れていた。
- 「多様性」という言葉について考えさせられた。いろいろな場面で用いられているが最近はその言質が「都合の良いもの」として使われている場面も多いと感じる。

### 研修Ⅲ 講義：「やる気を引き出す学習する空間づくり」（大矢先生）

- 生徒が伸びる授業とは、内容×表現力。そのためには学習する空間作りと主体性を引き出す発問の工夫が大切。実際の授業形式で講義は行われ、生徒の立場になったつもりで考えることができた。自分の強みと改善すべき点について客観的に把握した。
- 授業の成否は最初の 30 秒で決まるという言葉にハッとさせられた。自分自身の授業を振り返ってみて、生徒のやる気を引き出す“つかみ”が足りていなかったと感じた。
- 生徒の怠惰や態度に悩まされることがあったが、その姿や空気をつくっているのは自分自身に問題があったと気付かされた。すぐに実行できる一歩として、元気な挨拶、前向きは声かけから始める。
- 教師がまず楽しく授業に取る組む姿勢を大切に、生徒をほめることを心がけて演出することをしていきたい。「空間づくり」を意識して発問の工夫し、自身の授業力や楽しく共に学べる雰囲気づくりを目指していきたい。
- 注意する、叱る、怒るの違いをうまく細分化し、丁寧に分析してみると、全く別の段階であるということが分かった。

### 研修Ⅳ 講義：「アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善（中島先生）」

- AL の目的はアクティブ・ラーナーを育成することであり、AL で学力向上につなげていきたい。
- AL とは話し合ったりするなかで思考したり自らの考えを整理したりと対話型のコミュニケーションが必要になると考えていた。今回の講義の中で書くことにおいてもAL は成立するといった点が新たな気づきであった。
- AL は1 時間全てを使うのではなく、5 分から10 分でも行ってみるのもAL だと知り、これからやっていきたい。
- AL の手法として R80 を知ることができて良かった。方法が具体的かつ画期的なので実践したいと感じた。「AL 指数5～20 を目指す」というのも大変明確な指標で参考になった。
- AL について定義などを挙げ、明確なものにして説明されていて理解が深まった。さらにR80 といった非常に実践向きの話も聞き、自分の授業で活かしていきたい。